

論 文 要 旨

博士課程 甲・㉔	第 49 号	氏 名	永野 元章
<p>[論文題名]</p> <p><b>Nuclear Expression of Thioredoxin-1 in the Invasion Front is Associated with Outcome in Patients with Gallbladder Carcinoma, HPB 2012, 14, 573-582</b></p> <p>[要 旨]</p> <p>【目的】チオレドキシン (TRX) はチオレドキシン還元酵素 (TRX-R) で還元され, 生体内のレドックス制御を行う蛋白質である. アポトーシス抑制, 転写因子の活性化制御や発癌との関連性も示唆されている. 今回, 胆嚢癌におけるTRX発現を免疫組織化学的に検索し, その予後因子としての意義を検討した.</p> <p>【対象と方法】当科において1990年から2006年5月までに経験した深達度ss以上の切除進行胆嚢癌38症例を対象にTRXとTRX-Rを免疫組織化学的に検索し, その発現形式や臨床病理学的因子と2011年3月時点での予後について検討した.</p> <p>【結果】切除進行胆嚢癌38例の病理学的因子は, 1) 胆嚢周囲進展度(T) : T2 ; 17例, T3 ; 3例, T4 ; 18例, 2) 組織型:pap;8例, tub1;7例, tub2;14例, tub3;6例, その他3例, 3) stage:II;11例, III;7例, IVa ; 8例, IVb;12例であった. 全症例において腫瘍細胞の細胞質にTRXは発現し, 内29例(76%)で核にも発現を認めた. 核にTRX発現を認めた29例のうち13例では腫瘍の浸潤先端部においても核発現を認めた. TRX-Rは36例で細胞質のみに発現し腫瘍細胞の核発現は認めなかった. 浸潤先端部の細胞質にTRX-Rの発現を28例に認めた. TRX核発現群において, 浸潤先端部での発現群はそれ以外の群と比較して有意に予後不良であった (<math>p &lt; 0.05</math>). 浸潤先端部でのTRX核発現と各病理学的因子には相関を認めなかった. 単変量解析では進展度(T2 vs. T3, T4), リンパ節転移の有無, 進行度(fStageII vs III, IV), 根治度(fCurA, B vs C)に加えて浸潤先端部におけるTRX核発現が有意な予後規定因子であった. また根治切除27例のみでの単変量解析で, 浸潤先端部におけるTRXの核発現, かつTRX-Rの細胞質発現を共に認めることが唯一の有意な予後規定因子であった.</p> <p>【結語】進行胆嚢癌において, 浸潤先端部におけるTRXの核発現は予後不良のマーカーとなりうる可能性が示唆された. 根治切除が行なわれた症例において, 浸潤先端部におけるTRXの核発現, かつTRXRの細胞質発現を共に認める例は予後不良で, 術後補助療法を行なう事が望ましい.</p>			

備考 論文要旨は1, 000字程度にまとめるものとする。